

## まえがき

元 東京大学工学部長、現 高知工科大学学長 岡村 甫先生は、コンクリート構造を設計・材料・施工からなるシステムとして捉え、鉄筋コンクリート構造の非線形解析や自己充填コンクリートの開発など、多くの世界に冠たる研究業績をあげてきた。それらは研究論文や著書により後世まで語り継がれる。

一方、岡村先生は学生時代、東京大学硬式野球部の投手として通算 17 勝をあげたことでも知られている。東大野球部の最高記録であり、40 年経過した現在でも破られていない。

コンクリート工学と野球—相反するように見える 2 つの偉業を成し遂げた岡村 甫先生とはいったいどのような人なのか。

東京大学工学部土木工学科コンクリート研究室に卒論生として配属されて以来、大内は 11 年、土屋は 6 年が経過し、卒業・修了した現在でも岡村先生とは上司と部下の関係にある。先生と決して浅からぬ縁のある私たちは、コンクリートの研究も野球も、一人の、同じ思考をする「岡村 甫」によってなされていることを何度も認識して今日に至っている。

今回、岡村先生による論文以外の論説、随筆、解説やインタビュー記事等を取りまとめることとなった。東京大学工学部長、高知工科大学学長や土木学会長という要職ゆえに、岡村先生には専門分野であるコンクリートや土木工学分野以外での原稿の依頼も数多い。教育、スポーツ、歴史、そして政治経済に至るまで多岐にわたっている。しかし、改めて読み返してみると、これらも全て、一人の「岡村 甫」によって書かれていることが分かる。

本書は文章の単なる寄せ集めの「岡村 甫全集」ではない。全く異なる分野であっても根底に一貫して流れている岡村哲学を是非感じ取っていただきたい。

ただし、編集の趣旨としては岡村先生の専門分野もその他の分野も同じ土俵で扱うべきであるが、コンクリート工学が専門でない読者にも配慮して、全体を二部構成とし、第二部を「コンクリート・社会基盤工学」とした。いわゆる「結果」しか残らない論文とは違った、岡村先生の研究の背景を示す資料とすることも意図している。

なお、野球については、すでに岡村先生自身が「東大野球部と私 —神宮での球跡—」を執筆・出版しているため (<http://www.comse.co.jp> を御参照いただきたい)、本書では割愛した。本書と併せてお読みいただくと一層、岡村先生の岡村先生たる所以がお分かりいただけると思う。

2001 年 11 月 恩師の紫綬褒章受章決定の日に

大内 雅博  
土屋 智史